

令和元年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会 要点記録【確定稿】

- 開催日時：令和2年1月14日（火）18時00分～19時30分
- 開催会場：田無総合福祉センター 4階 第3会議室
- 出席委員：長田範子、小野修平、田邊洋、谷口陽香、戸田亘、阿壽子、山本弓彦、
渡邊浩文 <以上8名、敬称略、五十音順>
- 出席役職員：佐藤文俊、妻屋良男、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和元年11～12月)
 - 資料 2：コーディネート状況等月次報告（令和元年11～12月）
 - 資料 3：ボランティアコーディネート実績表（令和元年11～12月）
 - 資料 4：令和元年度傾聴ボランティア養成講習会実施報告
 - 資料 5：令和元年度傾聴ボランティア養成講習会参加状況と参加者の声
 - 資料 6：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（令和2年1～2月）
 - 資料 7：令和元年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
【未定稿】案
 - 資料 8：ボランティア活動者の懇談会 事業実施企画書
- 資料別冊：令和元年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
(確定稿)

1. 報 告 事 項

- (1). 業務報告(令和元年11月・12月)について（資料1～3）
 - ・ 事務局より業務報告を行う。
 - ・ 委員より特に質問はなし。
- (2). 傾聴ボランティア養成講習会の実施報告について（資料4・5）
 - ・ 事務局より実施報告を行う。
 - ・ 委員より特に質問はなし。
- (3). 軒下ふれあいバザーの実施報告について
 - ・ 事務局より口頭にて実施報告を行う。
 - ・ 参加団体は6団体。マックスバリュもバザーを行い、ボラセンも綿あめ販売を行った。
 - ・ 天気が良く、店には人が来ているが、バザーに寄っていただけの方が少なかった。
 - ・ 委員より特に質問はなし。
- (4). 業務予定(令和2年1月・2月)について（資料6）
 - ・ 事務局より業務予定を説明する。
 - ・ 委員より特に質問はなし。

40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80

2. 審 議 事 項

- (1). 令和元年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について(資料7)
- ・ P10の49行目について、柔らかい表現にする、もしくは具体的に書いた方が良い。
 - ・ 他に気づいたところがあれば今週中に事務局に連絡をいただき、それも含めて修正したものを確定稿としたい。

3. 協 議 事 項

- (1). ボランティア活動者の懇談会の実施について(資料8)
- ・ 事務局より企画内容について説明を行う。
 - ・ 懇談会の参加者はどのような方か。
 - ・ 対象は現在活動されている方を想定している。
- (2). 災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会の実施について(別添チラシ)
- ・ 事務局より企画内容について説明を行う。
 - ・ 社協職員も参加できると説明があったが、その時は業務の扱いか。
 - ・ 業務の扱いとなる。職員にも参加してもらい、地域のボランティアの動きも知ってもらいたいと考えている。
- (3). 田無活動室の利用について
- ・ 事務局より田無活動室の利用について説明を行う。
 - ・ 田無活動室の午後の使い方を変更する。1団体、月1回に限り午後の利用ができるようにする。ただし、午前もしくは夜間と連続しての利用はできない。
 - ・ 周知の方法はどのように行うのか。
 - ・ 毎年行っている年間の利用手続きの連絡を1月中に行うが、それに合わせて利用団体等に通知する。
- (4). 『気球くんプラン』について *各専門委員会からの報告
- ◎ 講座・講習会専門委員会の報告を受ける。
- 『夏体験ボランティア』
- ・ オリンピック・パラリンピックの関係で参加者が伸びると考えていたが、今年度は参加者が増えなかった。
 - ・ 子どもたちが忙しくなってきているのではないかと。長い目で取り組むことも大切。
 - ・ 受け入れ側現場の受け入れ態勢も厳しいものがある。
 - ・ 具体的な活動について生み出していく必要がある。
 - ・ 簡単な取り組みからかかわってもらえる必要がある。
- 『災害ボランティア養成講習会』
- ・ 災害ボランティアのイメージが力仕事としてとらえられている。もっとハードルを下げた取り組み工夫が必要。

- 81 ・ ネーミングを変えたり、カフェや足湯などの取り組みを取り上げて『テーマ型』の講座を構成
82 してみてはどうだろうか。
- 83 『災害ボランティアスタッフ養成講習会』
- 84 ・ 災害が発生し災害ボラセンを立ち上げることを考えると、引き続き講座を開催する必要がある。
85 ・ 社協職員にも積極的にこの講座に参加をしてもらいたい。
- 86 『傾聴ボランティア養成講習会』
- 87 ・ 傾聴ボランティアについて広く知ってもらう必要がある。担い手の現状を考えると、幅広い年
88 代の参加が必要である。
- 89 ・ 養成講習会をとおして、埋もれている人材の掘り起こしを行うことも大切。
90 ・ 傾聴を始めたばかりの人は不安も多いので、傾聴ボランティアが一同に集まる機会があると良
91 い。
- 92
- 93 ◎ 講座・講習会専門委員会の報告を受ける。
- 94 『コーディネート』
- 95 ・ 最近のコーディネートの課題について、ニーズが変わってきている。高齢者にかかわる関係機
96 関からの相談が増えている。
- 97 ・ 傾聴・囲碁・将棋などのニーズがあるが、勝負事はボランティアであっても勝ちたがる人がい
98 て困ってしまう。
- 99 ・ 依頼が多くはなってきたが、担い手が少ないことが課題。
- 100 ・ 得意なことをとおして、体験をとおして登録いただける方を増やしていくことも大切。
- 101 ・ ボランティアに登録していただいた後、待たせてしまうと活動から遠ざかってしまう。
- 102 ・ 包括やケアマネからの依頼が増える中で、認知症への対応など専門性も求められてきている。
- 103 ・ 一部の事業者からは、「お願いすれば見つけてくれる」と丸投げしてくる場合もある。ボラン
104 ティアコーディネートについての理解を深めていただく必要もある。
- 105 ・ ボランティアは万能ではないことを知ってもらう必要がある。活動自体が自身のよりどころに
106 なっている方もいる。
- 107 ・ 受け入れ側の考え方がまとまらない中では、ボランティアを受け入れるべきではない。活動者
108 の心構えを書いたものはあるが、受け入れ側の心構えを文章化しておく必要もあるのでは。
- 109 ・ ボラセンのコーディネーターだけでコーディネートするのではなく、施設等のボランティアコ
110 ーディネーターに任せてみることも方法。
- 111 ・ その上で、コーディネーター同士がつながることができれば、情報や資源の共有化が進み、ネ
112 ットワークが強化される。
- 113 ・ ボランティアにとって心地よい場所をつくることのできるコーディネートが大切。
- 114 『傾聴ボランティアグループ連絡会支援』
- 115 ・ 3年間ボラセンと講習会を開催し、今後は連絡会として組織化をしていく。
- 116 ・ 傾聴のニーズは多く、最近は精神疾患を抱えた方の依頼が目立つ。それゆえに実践の積み重ね
117 が大切になってくる。
- 118 ・ 組織化をしていく中で、1年間はしっかりと話し合いを持っていく必要がある。併せて、助成
119 金を活用しながら自立した運営を目指す必要もある。
- 120 『ボランティア活動者の懇談会』
- 121 ・ 懇談会を開催したうえで、実際の活動につなげられるかがポイント。

122 ・ 懇談会については、どのようにテーマを位置づけるかが重要。テーマはどのようにして決めて
123 いるか。

124 ・ 日常のコミュニケーションの中から、ボランティアが興味を持っていたり、課題と感じている
125 ことなどを選定している。活動者のモチベーションの向上が目的で、意見交換の場面で普段聞
126 けないニーズを拾う場にもなっている。

127 『軒下ふれあいバザー』

128 ・ 地域の企業と協働していくこのような取り組みには続ける大切さがある。

129

130 ◎ その他

131 ・ 引き続き各専門委員会で協議を続けることについて確認する。

132 ・ 各専門委員会の簡単な記録があると意見交換をしやすくなる。

133 ・ 「気球くんファンド」について3月に情報提供をして、調布を4月以降に視察したい考えを伝
134 える。

135

136

4. そ の 他

137

138 (1). 西東京市市民協働推進センターゆめこらぼの受託について

139 ・ 佐藤ボランティア担当理事より、ゆめこらぼの受託について受託候補者になったことについて
140 報告がある。

141

142 (2). 次回運営委員会開催日程について

143 ■日時：令和2年3月10日（火） 18時30分～20時00分

144 ■会場：田無総合福祉センター 4階 第3会議室

145

146 (3). そ の 他

147 ・ 谷口委員よりボランティアフォーラムの開催について情報提供がある。